第２期
三田市まち・ひと・しごと
創生総合戦略

令和４年４月

兵庫県三田市

目　　次

1　施策の背景.....2

2　総合戦略の基本的考え方.....2

(1) 位置づけ.....2

(2) 計画期間.....3

(3)推進体制.....3

3　課題と今後の取り組みの方向性.....4

(1)人口等の推移.....4

(2)将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所に準拠).....6

(3)第１期三田版総合戦略の取り組み.....7

(4)今後の取り組みの方向性.....9

4　第２期三田版総合戦略の主な取り組み.....10

(1)めざすまちの将来像.....10

(2)取り組みの方向性.....11

基本目標１　「選ばれるまち」になる.....11

基本目標２　「住み続けたいまち」になる.....13

基本目標３　「活力があふれるまち」になる.....15

基本目標４「子どもを産み、育てやすいまち」になる.....17

1　施策の背景

地方創生は、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としたものです。

我が国の少子化の進行、人口減少は深刻さを増しています。平成 27 年（2015 年）に 100 万 6 千人であった年間出生数は、令和 2 年（2020 年）には 84 万 1 千人と過去最少を記録し、合計特殊出生率は 1.34 となりました。また、出生数の減少と死亡数の増加を背景に、我が国の人口は、平成 20 年（2008 年）にピークを迎えた後、令和 2 年（2020 年）10 月 1 日現在の総人口は 1 億 2570 万人と 10 年連続減少しました。こうした状況は、多くの地方自治体にとって、将来的な持続性に関わるものです。

本市においては、平成 27 年度に第 1 期の三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「三田版総合戦略」）を策定し、『チーム三田』を合言葉に、市民の皆さんをはじめ産官学金労言など多分野の方々とスクラムを組み、地方創生に取り組んできました。前期三田版総合戦略で培ってきたまちの魅力をさらに磨きあげるとともに、第 5 次総合計画に基づく持続可能のまちづくりを下支えする本市の人口対策の政策パッケージとして第 2 期三田版総合戦略を策定します。

2　総合戦略の基本的考え方

(1) 位置づけ

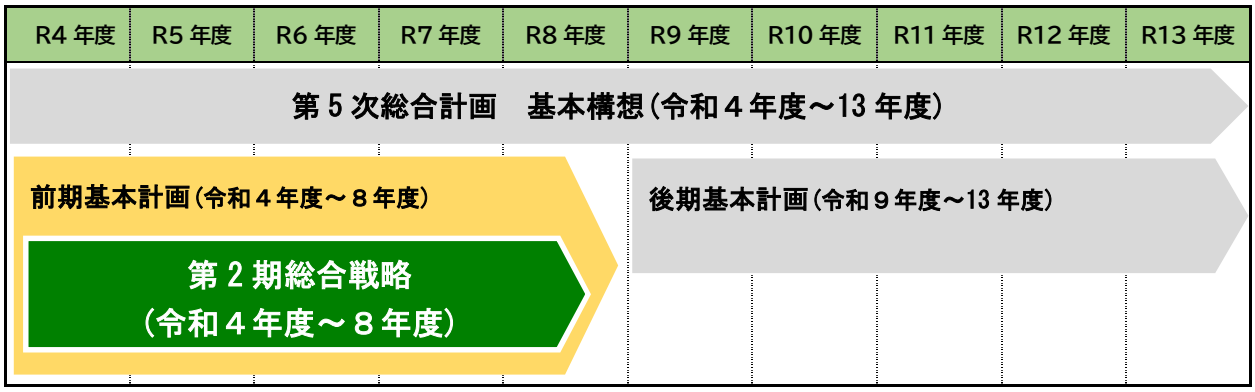
本市では令和 4 年度より、『「ひと」×「まち」×「さと」が織りなす未来都市　三田』をまちの将来像とした 10 年間の計画である「第 5 次三田市総合計画」に基づく持続可能なまちづくりを進めます。この総合計画では、目指すべき将来像を明らかにする(基本構想)とともに、将来像実現のためのあらゆる施策の取り組み(基本計画)を定めます。

第 1 期三田版総合戦略は、「第 4 次総合計画後期基本計画」に先行して策定しました。一方、総合戦略に掲げる取り組みはまちづくりの最上位計画である総合計画と一体的に進めることが適当です。そのため、後期基本計画の策定の際に「第 1 期三田版総合戦略」を溶け込ませて取り組んできました。

第 2 期三田版総合戦略についても、第 5 次総合計画と一体的に策定し、移住・定住や少子化対策等を基本計画から抽出し、地方創生に関する政策パッケージとしてまとめ、推進します。

(2) 計画期間

第２期三田版総合戦略の対象期間は、第５次総合計画前期基本計画の計画期間と同じく、令和４年度～８年度の５年間とします。



(3)推進体制

三田版総合戦略では、各施策の成果を客観的に検証できるようにするため、施策ごとに客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

戦略の実行にあたっては、持続可能な開発目標（「ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals）」）が目指す理念をまちづくりに活かすため、多様性と調和による誰ひとり取り残さないまちづくり（共生）、次世代につなぐ持続可能なまちづくり（再生）の３つの視点を念頭に、本市の魅力である「ひと」「まち」「さと」を織りなすことで生まれる相乗効果を活かしつつ、柔軟な発想と市民目線で取り組みます。

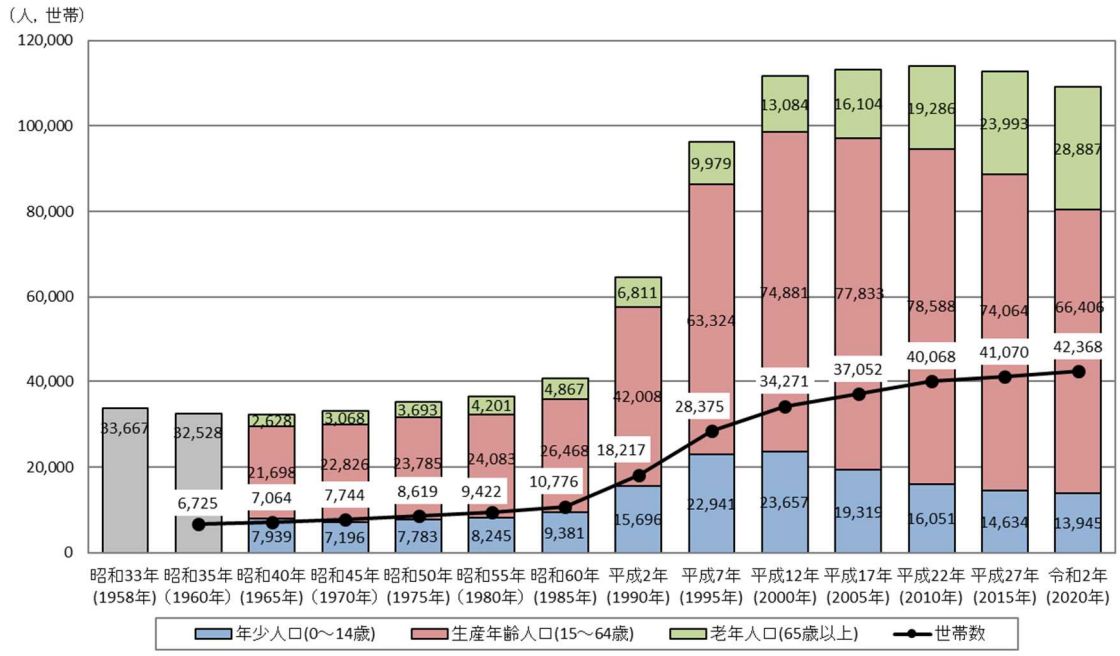
あわせて、事業の評価を行う仕組み（PDCA サイクル）として、施策の推進、実施の総合的な検証と見直しを行いながら進めていきます。

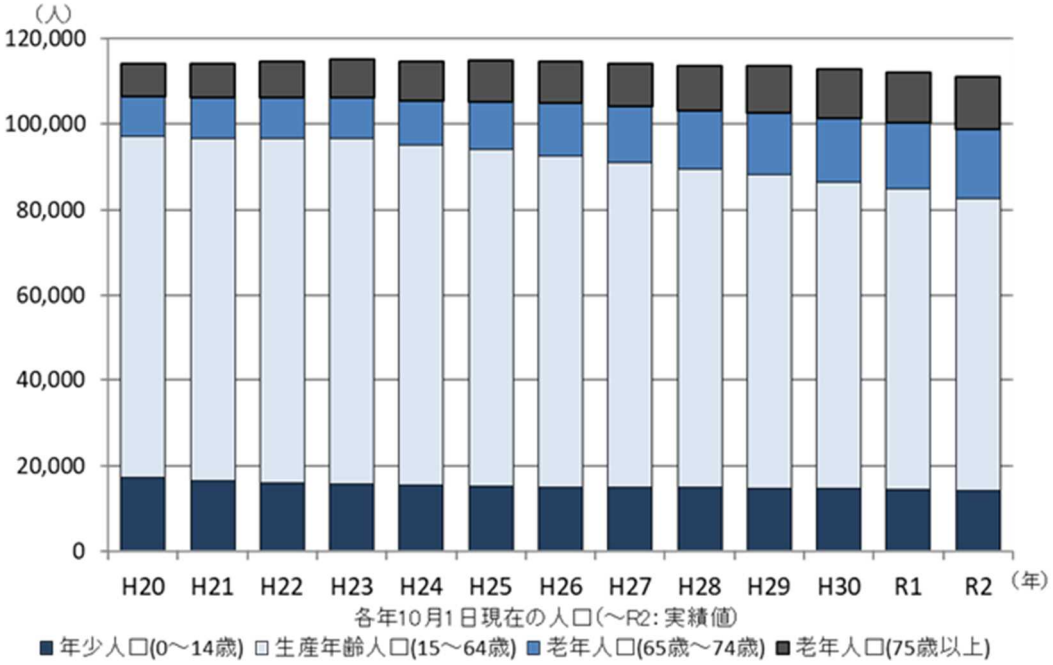
3　課題と今後の取り組みの方向性

(1)人口等の推移

①　人口の推移

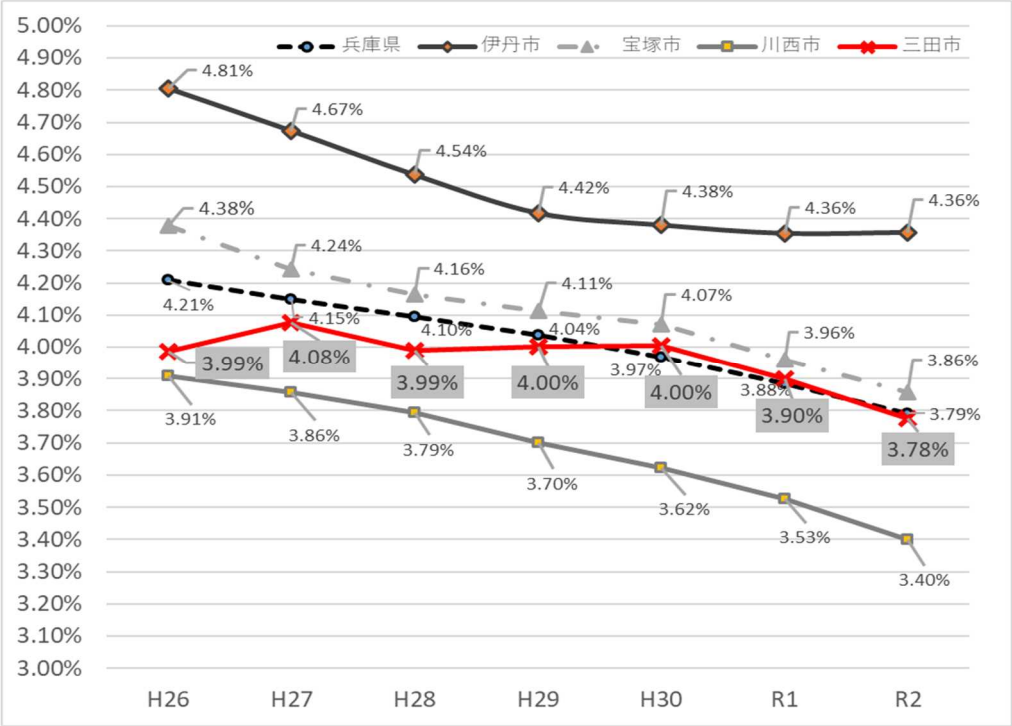
昭和 60 年（1985 年）から平成 7 年（1995 年）にかけて全国でも稀にみる人口急増期を迎え、平成 12 年（2000 年）には人口は 11 万人に達しました。平成 23 年（2011 年）に住民基本台帳人口で 115,061 人とピークを迎えた後、緩やかな減少傾向が続いています。





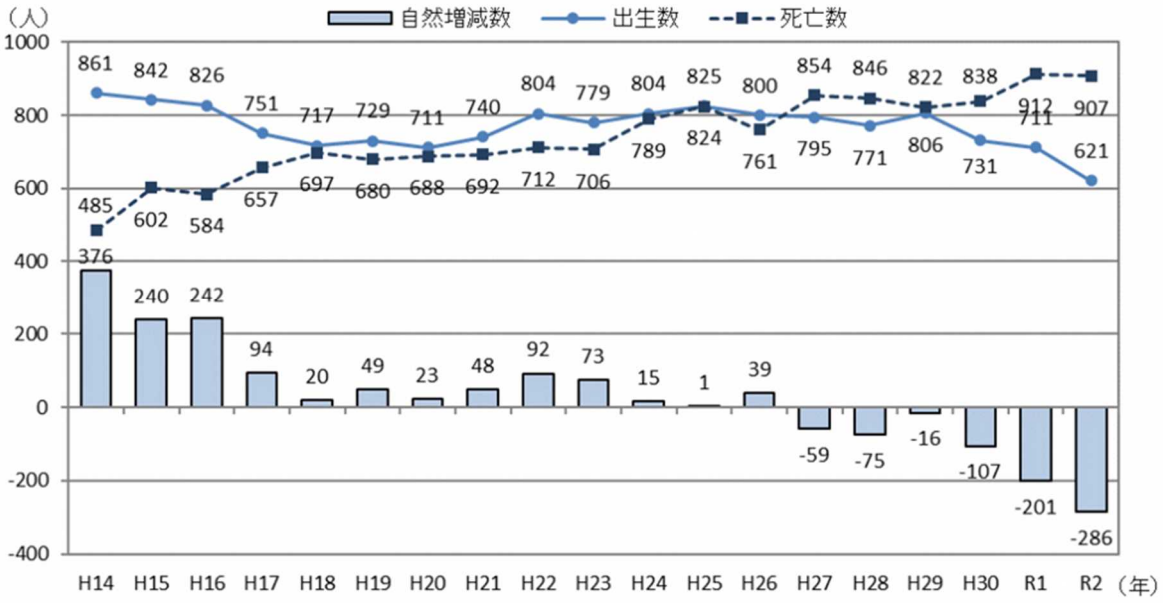
② 人口に対する０～４歳の子どもの数の割合

本市の合計特殊出生率（1.16）は、兵庫県平均（1.41）を大きく下回りますが、人口に対する０歳から４歳の子どもの数の割合は、県・近隣市と比較しても大きく変わらず、また第１期三田版総合戦略の期間中の減少幅が少ないことが大きな特徴です。



③ 自然動態(出生・死亡)の推移

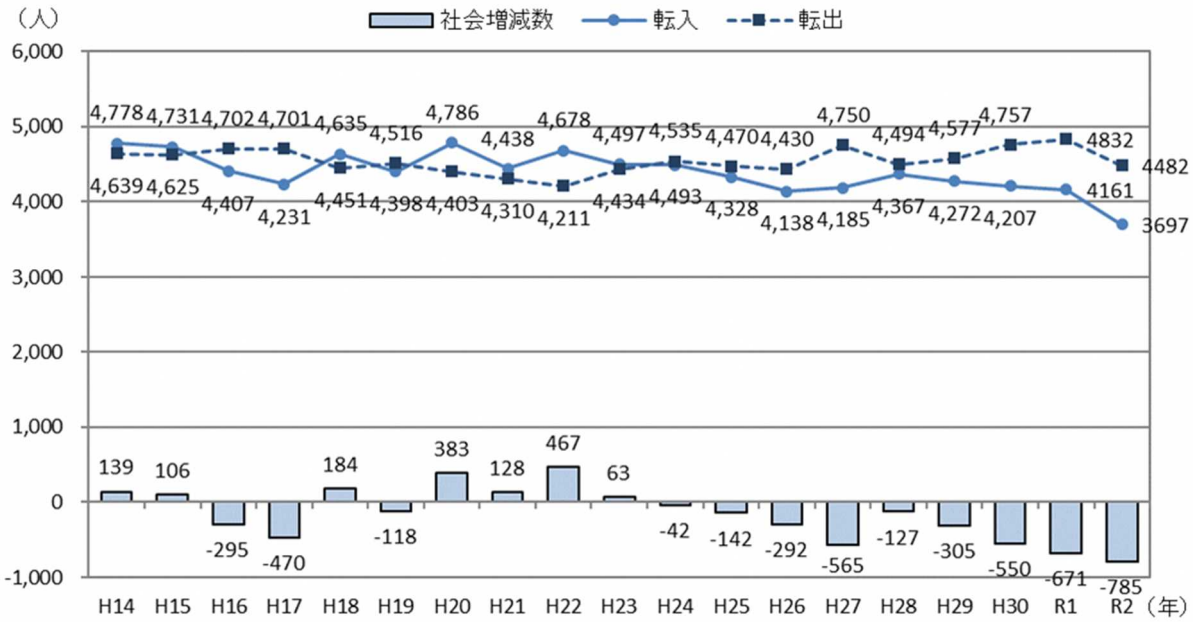
近年の出生数・死亡数の推移を見ると、出生数については長期的にみて横ばい状況から減少傾向に移行しつつあります。一方、死亡数については高齢化の進行に伴い、徐々に増加する兆しが見られ、平成27年（2015年）移行、出生数を死亡数が上回る「自然減」の状況が進んでいます。



④ 社会動態(転入・転出)の推移

平成 24 年以降は、転出者数が転入者数を上回る「社会減」の状況にあります。

転入・転出先は、県内で最も多いのは神戸市、県外では、大阪府(特に大阪市)が最も多い状況です。



(2)人口の将来展望

①2065 年の人口推計

2065 年の人口は約 65,000 人まで減少する見込みです。

②人口構成

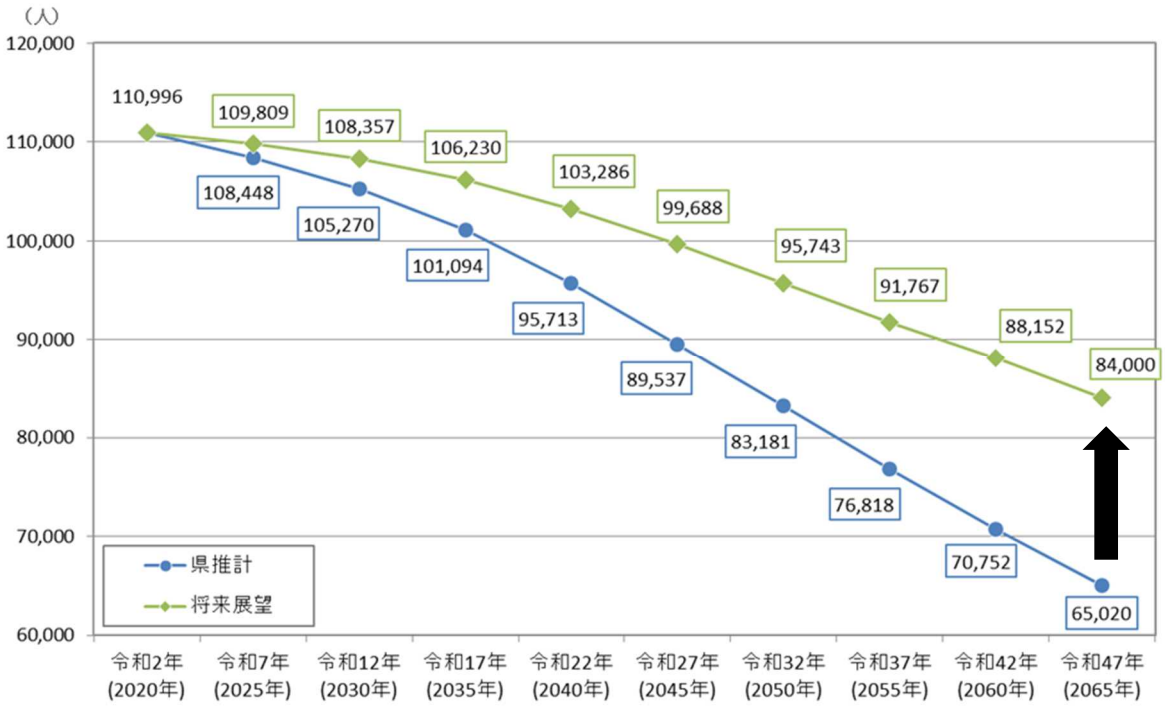
0 歳から 14 歳の年少人口の割合は、現在の約 13%から約 10%まで下落する見込みです。

一方で、65 歳以上の高齢人口の割合は、現在の約 26%から約 44%まで上昇する見込みです。

③市の取り組みの方向

今後人口減少が中長期的に進行することは避けられません。まちの活力を維持する上で望ましい人口規模として、2065 年時点で 84,000 人を維持することを目標とします。

そのために「人口減少にも負けないまちづくり」として少子化対策や移住・定住促進に取り組むとともに、まちの活力を維持するために活動する人を増やすことで、これまでのまちづくりで築いてきた暮らしやすさを維持しつつ、住み続けられるまちを目指します



(3)第１期三田版総合戦略の取り組み

第１期三田版総合戦略は、まちとしての魅力を高めることで、人口を確保しようとした戦略です。各施策については、例えば、こうみん未来塾をはじめ、まちの魅力づくりに貢献した事業がありました。一方、大規模な住宅開発も完了したこともあり、子育て世代を中心としたまとまった人口を確保できず、思い描くような人口の押し上げ効果が見られない状況がありました。

＜成果指標の状況＞

基本目標1　子どもに夢を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	合計特殊出生率	1.22(H25)	1.25	1.28	1.25	1.17	1.16	－	△
成果指標	乳児全戸訪問率	86.3%(H27)	99.5%	92.6%	92.6%	87.3%	93.6%	91.3%	○
成果指標	こうみん未来塾の参加者数	－	5,000人	263人	717人	2,217人	3,698人	2504人	○
成果指標	学習プログラム参加者数	3,000人(H27)	3,300人	3,657人	3,405人	6,329人	3,242人	1,586人	◎

基本目標2　高齢者に安心を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	市民満足度（高齢者の安心）	3.06(H26)	4.00/5点	3.08	-	-	3.00	3.13	△
成果指標	要介護・要支援認定者割合	17.2%(H27)	16.6%	17.1%	17.2%	17.4%	17.1%	17.2%	△
成果指標	高齢者運賃助成制度利用率	44.9%(H27)	55.0%	49.4%	51.1%	51.5%	52.0%	42.5%	○
成果指標	防災訓練の実施率(区・自治会)	70.3%(H27)	88.0%	76.4%	68.1%	68.3%	70.4%	39.4%	△

基本目標3　地域に元気を

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
数値目標	観光入込客数	344万人(H26)	400万人	346万人	337万人	329万人	315万人	279万人	△
成果指標	三田市に「住み続けたい」と感じる若者の割合	55.5%(H28)	60.0%	55.5%	43.4%	47.4%	47.0%	51.2%	△
成果指標	地場産レストラン年間来客数	－	40,000人	－	－	－	－	－	×
成果指標	ノルディック・ウォーキングイベントの参加者数	－	1,100人	354人	568人	1,113人	737人	67人	△

創生の方向性

指標	項目	基準値	R3目標値	H28	H29	H30	R1	R2	評価
成果指標	いきがい応援プラザ年間利用者数	－	3,600人	392人	1,460人	1,432人	1,133人	572人	△
成果指標	協働事業採択実施件数	－	20件	0件	1件	0件	0件	0件	×
成果指標	広域メディア掲載件数	50件(H27)	100件	62件	105件	91件	101件	105件	◎
成果指標	新婚・子育て世帯定住促進支援事業の利用件数	83件(H27)	110件	129件	86件	83件	55件	36件	△
成果指標	市民の満足度平均点（景観）	3.47(H26)	4.00	3.54	-	-	3.45	3.55	○

＜評価＞

基本目標１　子どもに夢を

本市の歴史や自然の中で、地域コミュニティとともに子どもの成長を見守ることを目標として、三田版ネウボラの推進や待機児童の解消、「こうみん未来塾」による地域人材を活用した理系教育の推進、有馬富士公園の豊かな自然を活用した学習プログラム等を中心に取り組みました。

評価としては、乳児訪問については、全戸訪問を目指し勧奨を行いましたが、思うように訪問率が伸びませんでした。三田版ネウボラの体制強化を進めつつ、訪問率の向上を図ります。そのほかの指標については、コロナ禍の影響はありましたが、一定の成果を得ることができ、引き続き取り組みを進めます。

基本目標２　高齢者に安心を

高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めることを目標として、地域包括・高齢者支援センターによる住み慣れた地域での生活を継続するために必要な支援や、認知症施策の推進等の強化、地域内の移動手段の確保として、地域ボランティアによる送迎システムの社会実証実験の実施、避難行動要支援者名簿の区・自治会との共有や個別支援計画の策定等を中心に取り組みました。

評価としては、コロナ禍の影響もあり、指標の数値も思うような結果となりませんでしたが、いずれの取り組みについても推進体制の強化が主な課題となっており、今後体制構築等の取り組みを進めます。

基本目標３　地域に元気を

若者が集うまちづくりや地域経済の活性化、スポーツ振興等による地域の活性化を進めることを目標として、地域に根差した学生のコミュニティへの支援、北摂三田第二テクノパークへの企業誘致やハローワーク・商工会と連携した就業機会の創出に向けた取り組み、認定農業者や認定新規就農者の確保等の取り組み、ノルディック・ウォーキングの普及啓発等を中心に取り組みました。

評価としては、地場産レストランの整備が期間内に行われなかったほか、若者の居住意向は横ばいの状況となりました。ノルディック・ウォーキングイベントについてはコロナ禍の影響で低調となっていますが、期間内に目標を超える結果も出ており、引き続き取り組みを進めます。

創生の方向性

３つの基本目標すべてに共通し、各施策の取り組み効果を高めるための方策として、地域で活躍したい学

生と社会人が地域でつながる機会の創出や起業家を育成するセミナー開催等の創業支援、まちづくり協議会に対する支援、パートナーシップ制度の導入等によるダイバーシティ社会実現の取り組み、シティセールスの推進等によるＵＩＪターンの推進、快適で魅力ある住みやすいまちづくりの推進等を中心に取り組みました。評価としては、シティセールスの指標である広域メディアの掲載は目標を上回りましたが、それ以外の指標については思うような結果となりませんでした。起業創業支援や協働の取り組みを中心に、実施方法の見直しを図りながら、取り組みを進めます。

(4)今後の取り組みの方向性

三田総合戦略は人口対策と地域の魅力づくりを主眼としたものです。第 1 期の取り組みの検証結果をもとに、地域の魅力づくりを引き続き進めつつも、移住・定住、少子化対策など、人口減少に関する取り組みについて、短期、中長期の取り組みをバランスよく組み合わせ、戦略的に実施することで、2065 年のまちづくり人口を 8.4 万人の確保に取り組んでいきます。

４　第２期三田版総合戦略の主な取り組み

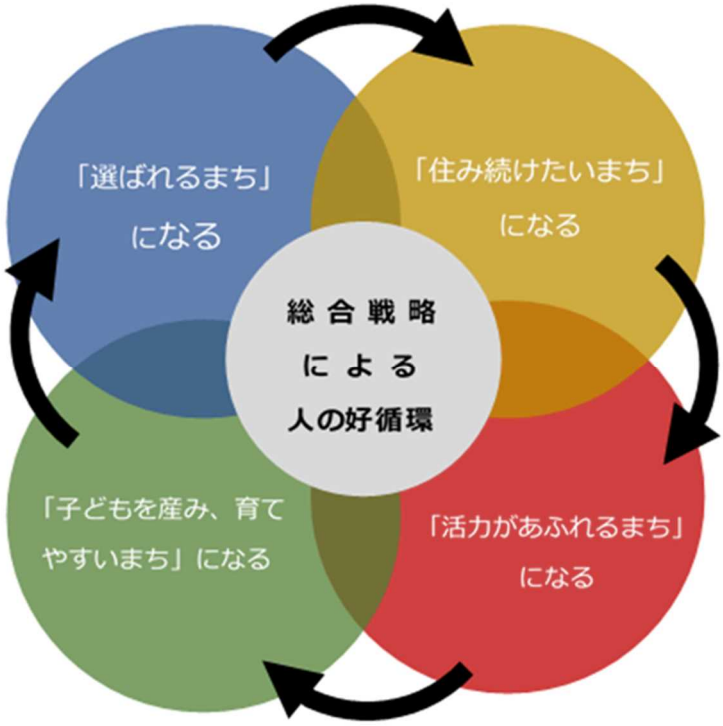
(1)めざすまちのイメージ

魅力がたくさんだ、三田

本市の魅力は、「ひと」、「まち」、「さと」です。「ひと」は本市に関わる多様な人財、「まち」は良質な住宅や都市機能、まちの歴史、「さと」は里山をはじめとした生活に密接に関わる自然や生活の匂いをそれぞれイメージしています。本市のまちづくりは、これら３つの魅力をそれぞれに磨きあげることに注力してきました。そして、本市に関わる多様な人財が、「まち」や「さと」に関わることで、地域の特色が引き出し、住みよく魅力的なまちを創ってきました。

そのことは、市民意識調査の結果において、多くの市民が「豊かな自然」、「住みよい住環境」、「暮らしの安全・安心」、「利便性が高い交通」などを本市の魅力として感じているとおりです。

こうしたすでにある多くの魅力に加え、「ひと」×「まち」×「さと」が織りなすことで生まれる新たな魅力をもとに、次の時代の三田市を創っていきます。



(2)取り組みの方向性

基本目標１　「選ばれるまち」になる

＜基本的方向＞

本市は、大阪・神戸の都市圏のほど近くに位置します。本市には、これまでのまちづくりを通じて築かれた充実した住環境や利便性の高い都市機能が備わる「まち」の魅力があります。さらに、市民の暮らしに安らぎや彩りをもたらすなど、「まち」のすぐそばにある里山をはじめとした自然に囲まれる「さと」の魅力を兼ね備えています。こうした「まち」と「さと」の魅力を同時に楽しめることが本市の大きな魅力です。

これまで、本市が移住先の選択肢にあげられ、選ばれるまちになることを目指す取り組みをベースに、移住先の選択肢に既に上がっている人の最終選択を後押しする取り組みを行います。

成果指標	基準値【令和２年度】	目標値【令和８年度】
移住相談窓口相談件数	24 件	500 件

資料：市若者のまちづくり課集計

①三田の魅力を知り、体感する

「学びの魅力にあふれたまち」、『「新しい働き方」と「豊かな暮らし」が両立できるまち』をコンセプトに、インターネット等のデジタル技術を積極的に活用するなどにより、本市の「まち」と「さと」の魅力を訴求するとともに、本市とつながる機会を創出することで、三田の魅力と住みよさを体感してもらい、移住に対する意識を高めます。

②三田で住み、働く場を創出する

新たな移住の受け皿となる住宅の確保策として、良質な住宅ストックを住宅市場へ流通させるための支援を行います。あわせて、テレワークを含めた多様な働き方を実現する場を創出するほか、移住者の多様な価値観を受け止め、市域内で働き、活躍できる場をつくることで、ＵＩＪターンを促進します。

＜主な取り組みと重要業績成果指標＞

①住宅ストックを中心とした積極的な移住の促進

若い世代の移住を促進するため、市民（さんだ住まいるチーム）が積極的かつ効果的な広報を行うとともに、関係機関との連携等により住宅ストックの円滑な利活用を促進する仕組みを構築します。

ライフステージ・ライフスタイルに応じた住み替えを促し、高齢者が地域コミュニティ内で健康で快適に住み続け、若年・子育て世代が移住し、ひととまちが好循環することによって、賑わいと活力を創出できる仕組みをつくります。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
空き家バンクを利用した成約件数	累計 22 件	累計 52 件

資料：市都市政策課集計

②新たな産業拠点の整備促進

産業構造の革新的な変化等を見据え、都市近郊に位置し近畿圏等の広域的経済活動を支える交通結節点等の本市の強みを活かし、先端技術を活用したモノづくり等の集積拠点、北摂三田第三テクノパーク整備の検討を進めるとともに、ICT 企業等の立地誘導に向けたサテライトオフィス等の環境を整備するなどスマートシティの実現を目指します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
起業相談等支援を行った者のうち創業した件数	累計 72 件	累計 160 件

資料：市産業政策課集計

③みんなで支える三田の農業

三田の農業は家族農業、集落営農や認定農業者等が力を合わせ支えあってきましたが、高齢化や担い手の減少等、農業を取り巻く環境は転換期を迎えているため、住民と関係機関が共に知恵を出し合い、集落ごとの農業の将来像を描き、持続的な農業や農地機能の維持体制づくりや若者や女性等の多様な新たな担い手の育成を進めます。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
認定農業者数及び認定新規就農者数	累計 88 経営体	累計 100 人経営体

資料：市農業創造課集計

＜第５次総合計画における関連する主な施策（基本計画）＞

若者が集うまち、商工業の振興、農業の振興、良好な住まい

基本目標２　「住み続けたいまち」になる

＜基本的な方向＞

本市には、「まち」や「さと」とつながり、それぞれの魅力を引き出す「ひと」の魅力があります。本市への愛着を生み、根付くきっかけとなる、人とのつながりや結びつきを大切にする取り組みをベースに、転出傾向が高い若者を対象にした「まち」や「さと」とのつながりづくりを進める取り組みを行います。

成果指標	基準値【令和２年度】	目標値【令和８年度】
未来を担う若者指数(15～19歳人口の10年後残存率)	63%	70%

資料：住民基本台帳

①人のつながり・結びつきを大切にする

人のつながり・結びつきをつくることは、若者をはじめ多くの人にとって本市への愛着を生み、根付く強い動機付けとなります。誰ひとり取り残さないことを主眼に置き、デジタルを積極的に活用し、対面、非対面に関わらず人のつながり・結びつきを構築します。

②若者のまちとの関わりを応援する

若者が、多様な体験を通じ、本市で果たしたい役割を見つける機会を創出するとともに、地域資源（ひと・もの・こと）との繋がりを促進し、若者が自ら望む役割を果たせるようきめ細やかな支援を行います。若者が、自らまちづくりに関わる中で、魅力溢れる人と関わることで、本市への愛着が生まれ、定住を促進します。

＜主な具体的取り組みと重要業績成果指標＞

①若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成

自分と社会との接点を知ることで、自分らしく生きる・働くことに気付き、行動（まちづくり・起業）につながるプログラムの実施、ソーシャルビジネス等の起業や新規就農の支援、ベンチャー企業等の誘致等により地域で活躍する若者を増やし、人や経済が域内循環する活動的な「若者が集うまち」三田のイメージを形成します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
地域でチャレンジできた学生等若者のプロジェクト数	累計 2 件	累計 60 件

資料：住民基本台帳

②住民主体の地域づくりに向けたまちづくり協議会等への支援強化

地域担当や市民センターの機能強化、デジタル技術の活用等を通じて、地域活動の負担軽減や意思決定の透明化を支援します。まちづくり協議会等が、地域の特性や特徴を踏まえた地域計画等をもとに、地域の未来像を共有しながら市民、事業者・団体等、行政の多様な力をつないで創造的に解決できるよう地域担当を中心に支援します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	15.0%	30.0%

資料：市民意識調査

③つながりをつくり一人にさせない孤独・孤立対策の総合的な推進

孤独･孤立の防止を社会全体で取り組むべき問題として周知啓発を行います。多様な担い手や地域、関係機関と連携して、孤立を防ぐため日頃から人と人、人と社会のゆるやかなつながりをつくる取り組みや、望まない孤独や社会的に孤立する状態にある人を把握し、一人ひとりに寄り添った相談と伴走型の支援を行う取り組みを総合的に推進します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
自殺死亡率	16.4／年	6.7 以下／年

資料：住民基本台帳

＜第５次総合計画における関連する主な施策（基本計画）＞

地域で支えるまちづくり、若者が集うまち、心つながる暮らしの安心

基本目標３　「活力があふれるまち」になる

＜基本的方向＞

日本全体で人口減少が進行する中にあって、大幅な人口増加を見込むことは難しいと考えられます。一方で、人口減少の下であっても、まちの活力を維持し、住み続けられるまちづくりを進める取り組みが求められます。本市においては、「ひと」が「まち」と「さと」に関わることでまちの魅力を引き出され発展してきました。「まち」と「さと」に関わる「ひと」が健康で元気に活動できるよう健康づくりを推進するとともに、活動できる場を創出していく取り組みを行ないます。また、新たな人を迎え入れるきっかけともなる、本市の立地を活かした交流人口を増やしていく取り組みを行ないます。

成果指標	基準値【令和２年度】	目標値【令和８年度】
現在、「幸せ」と感じている高齢者の割合	62.8%	66.8%
ふるさと納税寄附件数	5,265 件	8,000 件

資料：市いきいき高齢者支援課アンケート及びまちのブランド観光課集計

①「いつまでも健康で、活躍できるまち」をつくる

年齢に関わらず、住み慣れた地域で、いきいきと自立して暮らせるよう健康寿命を延ばす取り組みを進めるとともに、これまでの経験で得た知識や技能、新たな学びを活かすための支援を行い、地域の元気づくりを進めます。

②「通り過ぎるまち」から「立ち寄るまち」になる

観光ビジョンの推進により、本市がもつ魅力的な人・ことの資源をかけ合わせた相乗効果により、新たな魅力づくりを進めます。合わせて、ハブ（結節点）の利点を活かし、周辺市町との広域的連携を進めるとともに、多くの人が立ち寄りたくなるまちのコンテンツを創出します。

＜主な具体的取り組みと重要業績成果指標＞

①健康寿命延伸に向けた取り組み

市民が、生涯を通じて、健康で自立した生活を送ることができるようデジタル技術を活用したヘルスケアの取り組みを推進します。個人・地域の課題に応じた疾病予防、重症化予防とともに、サルコペニアやフレイルの予防に着目した保健事業と介護予防を一体的に実施し、健康寿命の延伸に向けた取り組みを推進します。

成果指標	基準値【平成 27 年度】	目標値【令和８年度】
健康寿命の延伸	男81.19歳、女85.23歳	男81.5歳、女85.6歳

資料：完全生命表（平均余命）

②多世代に学びの機会を提供～学びの自己実現から社会貢献へ～

生涯を通じての学びは、行政だけでなく高等教育機関との連携によるリカレント教育の拡充等により、子どもから学生、シニアまでの多世代に学びの機会や交流の場を提供します。地域人材や教育機関、企業等との連携により市民の活躍の場を創出し、市民力を生かせる仕組みづくりを進めます。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
当該年度に図書館に来館した延べ人数	625,777 人／年	700,000 人／年

資料：市文化スポーツ課集計

③誰もが楽しむ三田の観光・文化～また来たくなるおもてなし～

高齢者・外国にルーツのある人・障害のある人等誰もが三田の観光・文化を楽しみ交流する環境を整えます。そのために市民、事業者・団体等が連携しおもてなしの心で来訪者を受け入れます。大阪・関西万博に向けて、訪日外国人をも魅了する観光コンテンツづくり、多言語情報発信や受入体制の強化等、インバウンド対策にも取り組みます。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
観光入込客数	3,569 千人／年	3,900 千人／年

資料：兵庫県集計

④三田の魅力づくり、地域ブランドづくりの推進

まちの魅力や活力を高めていく取り組みは、人口政策を有利に進めていく上で、重要な意味を持ちます。三田が持つ魅力を高め、地域ブランドづくりに資する様々な取り組みを積極的に進めてまいります。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
ふるさと納税寄附件数	5,265 件	8,000 件

資料：市まちのブランド観光課集計

＜第５次総合計画における関連する主な施策（基本計画）＞

健康づくり、いつまでも学び、活躍できるまちづくり、観光・交流・文化の振興

基本目標４　「子どもを産み、育てやすいまち」になる

＜基本的方向＞

現在、様々な事情で「子どもがいる暮らし」を選択することをためらう若者が増えています。「子どもがいる暮らし」を人生の選択肢の一つとして選ぶことの後押しや、その楽しさを理解する機会づくりの取り組みをベースとして、「子どもがいる暮らし」を望む人の思いを支えるための取り組みを進めます。

成果指標	基準値【令和２年度】	目標値【令和８年度】
0～4 歳児童数	3,892 人	3,500 人

資料：住民基本台帳

①「子どもがいる暮らし」への思いを育てる

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。“自分の未来は自分で決める”といった主体的な選択の後押しやそれを実現するための学びの場の創出とともに、地域や学校において乳幼児と接する機会を設ける等を通じて、「子どもがいる暮らし」の楽しさを理解する機会づくりを進めます。

②「子どもがいる暮らし」への思いを支える

結婚・妊娠・子育て等の段階で、そのハードルとなる要因を取り除くための支援や対策を行うことで、「子どもがいる暮らし」を望む人が、その願いをあきらめることがないよう支援します。また、若い世代に対しては、若者同士のつながりや交流を通じて希望する将来像を描くとともに、自分が望む未来と「子どもがいる暮らし」の両立の実現を後押しする環境づくりを進めます。

＜主な具体的取り組みと重要業績成果指標＞

①新しい働き方の推進と出産・子育てを支援する仕組みづくり

自分にあった暮らしをする若者が増えるよう新しい働き方（テレワーク、サテライトオフィス等）支援を行います。性別に関わりなく誰もが暮らしやすく出産・子育てに理解ある地域・職場づくりや若者のコミュニティ形成等による出会いの機会創出、子どもをもつことに明るい希望を持てるライフデザイン構築支援等少子化の進行を緩和します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
0～4 歳児童数【再掲】	3,892 人	3,500 人

資料：住民基本台帳

②生きる力の基礎を育む教育・保育の推進による子どもの育ちの支援

市立幼稚園の再編による望ましい集団規模の確保とあわせて、就学前教育・保育施設の公民連携や保育者の資質の向上と、豊かな自然、文化、歴史、伝統等の地域資源の活用や地域人材との交流に努めることにより、市全体の就学前教育・保育の充実を図ります。

本市の豊かな自然環境・教育資源・地域資源とデジタル技術を活かし、子どもたちの探究心を刺激する体系的で連続した学びを創出し、感性や好奇心、創造力を育み、新しい発想をもって活躍できる力を育成します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
就学前施設における教育・保育により、子どもが大きく成長したと考える保護者の割合	85.7%	増加

資料：市幼児教育振興課集計

③特に支援が必要な子育て家庭へのアプローチ

不妊や不育症等子どもを持ちたいと願う人や産後間もない家庭及び多胎児家庭等育児負担が大きい家庭への支援に取り組みます。不登校・ひきこもり、ヤングケアラーその他支援が必要な子どもの把握を行い、学校・関係機関・関係部局が連携して支援します。

成果指標	基準値【令和 2 年度】	目標値【令和 8 年度】
三田版ネウボラ拠点（子育て世代包括支援センター）の延べ相談者数	455 人／年	1,300 人／年

資料：市すくすく子育て課集計

＜第５次総合計画における関連する主な施策（基本計画）＞

乳幼児期の育ち、若者が集うまち、子ども・子育ての安心

参考

1　第２期三田版総合戦略検討体制及び経過

総合計画担当係長 14 名による検討体制により、以下の検討経過を経て、第 2 期三田版総合戦略の検討を行いました。

年月	項目	内容
R2.12	市長講話	講話題目「人口減少に負けないまちづくり」
	若者のまちづくり課との意見交換	全体会として開催。若者のまちづくり課と移住・定住施策について意見交換 出生、移住、定住、まちの活力づくりの 4 班体制で検討する方向を確認
R3.1	ロジカルシンキング研修	（ICT 推進課主催研修へ参加） 人口減少の転入促進及び転出抑制対策等の検討
	打ち合わせ	研修内容に基づき、班ごとの打ち合わせと資料作成
R3.2	ロジカルシンキング研修	（ICT 推進課主催研修へ参加） 検討成果の発表等
	中間報告に向けた検討	班ごとにテーマ別の現状を把握、分析、対応の方向性の骨格（考え方）のまとめと資料作成
R3.3	市長・副市長への中間報告	テーマ別に報告し、市長・副市長に方向性と考え方を確認
R3.4	総合戦略内容検討	総合戦略の内容につき、班ごとの打ち合わせ
R3.5	総合戦略内容検討	総合戦略の内容につき、班ごとの打ち合わせ
R3.6	総合戦略内容検討	総合戦略の内容につき、班ごとの打ち合わせ
R3.7	NPO法人空き家相談センターとの意見交換	総合戦略の内容検討の参考とするための意見交換会
	市長副市長協議に向けた打ち合わせ（各班）	班ごとの打ち合わせ
R3.8	市長・副市長協議出席	市長・副市長協議の説明員としての出席（全 2 回）
R3.8	三田市総合計画審議会総合戦略部会	審議会総合戦略部会の対応

2　検討体制（令和４年３月 31 日時点）

	班	所属			氏名
		部	室	課	
1	定住班	福祉共生部	健康推進室	国保医療課	坂口　憲太
2		まちの再生部	都市政策室	都市政策課	山中　志朗
3		市民病院事務局		総務課	尾﨑 佐智子
4	移住班	まちの再生部	都市政策室	審査指導課	澤﨑　雄
5		上下水道部		下水道課	小谷口 良隆
6		上下水道部		浄水施設課	長澤　正憲
7	少子化班	地域創生部	市民協働室	協働推進課	鎌田　慎也
8		子ども・未来部	子ども未来室	すくすく子育て課	常澤　知志
9		子ども・未来部	子ども未来室	健やか育成課	佐藤 まゆみ
10	活動人口班	地域創生部	市民協働室	協働推進課（ウッディ・カルチャータウン担当）	堀　和博
11		福祉共生部	健康推進室	健康増進課	関　啓子
12		学校教育部		教育総務課	橋本　純子
13		公平委員会事務局			小山　貴士
14		消防本部		予防課	室谷　健司

3　成果指標一覧

	成果指標	基準値 【令和 2 年度】	目標値 【令和 8 年度】	算定根拠
1基本方向	移住相談窓口相談件数	24 件	500 件	市若者のまちづくり課集計
1－①	空き家バンクを利用した成約件数	累計 22 件	累計 52 件	市都市政策課集計
1－②	起業相談等支援を行った者のうち創業した件数	累計 72 件	累計 160 件	市産業政策課集計
1－③	認定農業者数及び認定新規就農者数	累計 88 経営体	累計 100 経営体	市農業創造課集計
2 基本方向	未来を担う若者指数(15～19 歳人口の 10 年後残存率)	63%	70%	住民基本台帳
2－①	地域でチャレンジできた学生等若者のプロジェクト数	累計 2 件	累計 60 件	住民基本台帳
2－②	隣近所の人と「困った時に助け合える」と考える市民の割合	15.0%	30.0%	市民意識調査
2－③	自殺死亡率	16.4／年	6.7 以下／年	住民基本台帳
3 基本方向	現在、「幸せ」と感じている高齢者の割合	62.8%	66.8%	市いきいき高齢者支援課アンケート
3 基本方向	ふるさと納税寄附件数	5,265 件	8,000 件	まちのブランド観光課集
3－①	健康寿命の延伸	男81.19歳 女85.23歳	男81.5歳 女85.6歳	完全生命表（平均余命）
3－②	当該年度に図書館に来館した延べ人数	625,777 人 ／年	700,000 人 ／年	市文化スポーツ課集計
3－③	観光入込客数	3,569 千人 ／年	3,900 千人 ／年	兵庫県集計
3－④	ふるさと納税寄附件数	5,265 件	8,000 件	市まちのブランド観光課集計
4 基本方向	0～4 歳児童数	3,892 人	3,500 人	住民基本台帳
4－①	0～4 歳児童数【再掲】	3,892 人	3,500 人	住民基本台帳
4－②	就学前施設における教育・保育により、子どもが大きく成長したと考える保護者の割合	85.7%	増加	市幼児教育振興課集計
4－③	三田版ネウボラ拠点（子育て世代包括支援センター）の延べ相談者	455 人／年	1,300 人／年	市すくすく子育て課集計

三田市 総合政策部 政策調整室 政策課

〒669-1595 兵庫県三田市三輪 2-1-1
TEL(079)563-1111　FAX(079)563-1366
三田市公式ホームページ　https://www.city.sanda.lg.jp